

「茅ヶ崎海岸の軽石(1)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

2023年10月～11月にかけて、硫黄島(東京都小笠原諸島/硫黄列島)の硫黄島近傍の海底火山が噴火し、大量の軽石を噴出しました。軽石は太平洋上の海面を漂流し、2024年3月には沖縄地方に、2024年5月頃からは、関東地方南部(主に神奈川県)の海岸にも漂着を始めています。私も5月下旬に、沖縄県の石垣島、由布島、竹富島で硫黄島由来の軽石を採取しています。



鎌倉の七里ガ浜側(東側)からの江の島に見慣れているせいか、茅ヶ崎側(西側)から見た江の島は何となく新鮮な印象を受けました。



写真は、沖縄県与那国島比川浜で2024年5月に採取した軽石です。大きさは約10cm、全体的に黒っぽく、硫黄島海底火山の軽石の特徴を備えています。白い付着物は「コケムシ(外肛動物)」の一種で、これはつい最近まで海面を浮遊していた証拠の一つになります。今回の硫黄島海底火山由来の軽石の最大の特徴は、何といても全体的に黒っぽいことです。



海岸にはゴミが漂着しています。この「ゴミの列」は満潮時に打ち上げられたもので、軽石も満潮時の汀線に打ち上げられるので、大抵このゴミの列に中で発見されます。まだ海水浴シーズンではなかったので、ゴミが片付けられていなかったのが幸いでした。



6月上旬に藤沢市の中学校に出張があり、かなり早く到着したので、早朝の茅ヶ崎海岸で軽石を探してみました。



ゴミの大部分は、海面に浮く海藻(たとえば浮気泡を持つホンダワラ類)の残骸です。ほかにも、流木の破片、マツぼっくりなどの木の実、プラスチック片などが雑多に混在しています。その中に黒っぽい石が見られました。どうやらこれが軽石のようです。